

令和3年度第2回神岡地域協議会会議録

令和3年9月

神岡地域協議会

令和3年度第2回神岡地域協議会会議録目次

■開催方法	1
■開催日程	1
■開催場所	1
■出席委員（書面会議回答者）	1
■欠席委員（書面会議未回答者）	1
■会議成立要件	1
■案件	1
■送付資料	1
■提出された意見等	
<案件1> 地域枠予算活用事業について	2
<案件2> (仮称) 彩色千輪プロジェクト (地域拠点利活用活性化事業) について	2
■署名	5

令和3年度 第2回神岡地域協議会 会議録

第2回神岡地域協議会は、新型コロナウイルス感染拡大防止への対策として、書面により開催し、委員から意見等を聴取しました。

■開催方法：

委員へ会議資料を送付し、書面により意見等を聴取した。

■開催日程：

令和3年9月16日（書面通知日）から
令和3年10月1日（意見書返信期限）まで

■開催場所：

書面開催の為なし

■出席委員（書面会議回答者）：10名

池田君男、齊藤 劼、齊藤 亘、佐々木 尚美、
佐藤和彦、鈴木幸一、高橋しげ子、高橋 保、
高橋尚子、中村淑子

■欠席委員（書面会議未回答者）：4名

伊藤明美、工藤容子、今 真弓、今野由美子

■会議成立要件：

委員14名のうち10名が出席のため、大仙市地域自治区の設置に関する条例第8条第3項の規定に基づく会議の成立要件（委員の2分の1以上）を満たし、会議は成立した。

■案 件：

- 1 地域枠予算活用事業について
- 2 （仮称）彩色千輪プロジェクト（地域拠点利活用活性化事業）について

■送付資料：

- ・第2回神岡地域協議会 案件内容説明
- ・地域枠予算活用事業一覧（行政主導型、市民協働型）
- ・（仮称）彩色千輪プロジェクト（地域拠点利活用活性化事業）実施要領
- ・拠点（案）道の駅かみおかについて
- ・道の駅かみおか「茶屋っこ一里塚」に関する意見調査まとめ
- ・意見書

■提出された意見等

＜案件1＞地域枠予算活用事業について

○齊藤亘委員

嶽の湯温泉の建物をスクリーンにし、中央公園をギャラリーエリアとして「プロジェクションマッピング」の実現を提案したい。

○佐藤和彦委員

厳しい予算内で事業している感があり、やりくりが大変そうで難儀かけています。遊具のメンテナンス費用の今後の見通しは。

○鈴木幸一委員

以前にも話したことがあろうかと思いますが、神岡の伝統行事であります梵天奉納行事に予算を活用できないものでしょうか。ここ2年ばかりコロナの関係で中止となっておりますが、収束すれば復活すると思います。町内で10本くらい上がっております。若い人たちが主体となり参加しておりますので、これからの時代を担う人たちのためにも、貴重な予算を有効活用できたらと思います。

＜案件2＞（仮称）彩色千輪プロジェクト（地域拠点利活用活性化事業）について

【拠点施設の選定について】

「道の駅かみおか」とした委員・・・8名

「文教エリア（中央公園を中心とした神岡町時代からの文教エリアの復活）」とした委員・・・1名

「神宮寺駅前から神岡支所付近まで」とした委員・・・1名

【拠点の活用方法について】

「道の駅かみおか」に関する意見

○齊藤劭委員

今後議論が必要だと思う。

○佐々木尚美委員

バイクや自転車によるキャンプツーリングや車中泊による旅をする方に好まれる機能を持たせると、現状よりかなりの利用者増加と経済効果は見込める。そこに地域性のある商品を24時間購入できるようにすれば、ターゲットに対しかなりの訴求力は持てる。具体的な案は以下のとおり。

①コインシャワーの設置

これが最も重要で、上記の旅行者以外に長距離トラック等の方々にも強いニーズがある。同時にこれがあることで、道の駅が宿泊地となり、さらには旅の途中の目的地となる。

②緑地スペースをキャンプスペースとして開放する。

神岡の道の駅は、規模自体は小さいが、幸いなことに緑地スペース（芝等）の比率が多いように感じる。ターゲットはバイクや自転車等での旅でソロテント（小さいテント）を利用

する方々なので広さ的には問題無く、逆にファミリーキャンプをするような大型テントの使用が難しい広さなので都合が良い。また、ソロで利用する人は大規模な施設はあまり好まないのも尚良い。

③自動販売機で地場産品やアメニティを販売する

地酒や地元の漬物などの加工品（一人なべっこセット等）、その他の生鮮食品（キャンパーは自炊をする）、アメニティ（タオル、歯ブラシ、耳栓（騒音がある場所でのキャンプではニーズがある）等）を自動販売機で24時間購入できるようにする。当然、キャッシュレス対応や災害時に稼働する自動販売機とするのも良いのでは。自動販売機を集約した場所（小屋等）があっても良い。

④防犯上の監視カメラ

当然に利用者が増えることで悪質なゴミ捨てや違法行為及び迷惑行為が発生する可能性が高まるので必須。利用者目線でも必ず望まれる機能。コインシャワーの出入口付近や敷地全体等（セキュリティー企業の活用が有効か）。

⑤自転車とバイク専用の駐車スペース

屋台市場前の道路は幅も広く、隣に緑地（キャンプスペース）もあり、斜め置きで良いスペースとなりそうである。

⑥名称や看板表示（禁止事項等）

名称そのものに直感的に伝わる単語を入れることが強い効果を持つ。「キャンプ」や「Pキャン」等の単語は伝わり易く、探す側からしても見つけ易い。正直な所、「茶屋っこ」という単語にも「一里塚」という単語にも、利用者に訴求できるものは現状では無い様に思う。道路上の看板にも、シャワーマークや宿泊マーク、テントマーク等を描く。また、敷地内看板で緑地スペースでの直火禁止や深夜帯（10時以降）の騒音等の禁止事項を明確にすることも必須。

⑦欲を言えば、もっと駐車場は欲しい（もともと少ないが、上記を行えば、おそらく更に足りなくなる）。宿泊者用と立ち寄り用が住み分けできるくらいが理想。

重要なことは、ほかでやっていることを掻い摘んで取り組むのではなく、ターゲットを明確にして、そこを目指して強く訴求する方法でなければ、間違いの無い結果と持続的効果は見込めない（ピンホールマーケティング）。

そこが確立すれば、連休や週末の直売や関連性のあるイベントをしても簡単には失敗しない。それはターゲットに見合った出店希望者が自ら手を上げるようになるためである。

新型コロナウイルスの影響は今後も尾を引く可能性が高く、それと同時にアウトドアブームもまだ伸びている最中である。また、アウトドアブームが無くてもこういった形態の旅自体に一定のニーズが常に存在しているので、効果が出ることはほぼ間違いないと考えられる。

全くのゼロからの構想（完全な建替えや移転）となれば、いくらでもコンセプト等の段階から取り組むことが可能だが、もし今ある「道の駅かみおか」に対して、「小さい資本投下と出来る限りの効果」という制約の下で検討するのであれば、こういった方法も一つと思う。

いずれにしても、ターゲットが不明確な週末イベントと催事売店といった短絡的な取り組み方は、他地域や他団体でもこの数十年で十分に行われ、ネタ切れ等のマンネリ化や元々の集客力のなさにより悲惨なものとなっている場合が殆どなので、手順を間違わない様に取り組むべきと思う。

○鈴木幸一委員

①まず、お客様でにぎわっている道の駅を視察して、どのようなことでにぎわっているのか調

査をして、それに基づき検討する。

- ②夏休み中に小学生や中学生を対象にしたイベント（例えばキャンプファイヤー）、小学生には親等の保護者も参加してもらいます。園児を対象にしたものもなにか考えてもらいたい。親御さんも来てくれます。
- ③年代別に合うような料理を安価に提供する。食べ物商売は三掛けとか言われているようですが、出血をある程度覚悟で行って様子を見る。安価でおいしいものがあれば訪れます。
- ④トラックドライバーも沢山おられますので、足湯を設置してリラックスしていただく。冬期間なんかは下半身が冷えているので受けると思います。
- ⑤人を集めるということになれば、社員教育も重要になってくると思います。

○高橋しげ子委員

- ・地域で収穫した米や野菜などを使った料理（レストラン）
- ・売店と直売所が別々になっているので、地元でとれた野菜や果物などの売場を一緒にする。
- ・子どもたちが遊べる場所があれば良いと思う。
- ・長沼に吊り橋がかかっているので、散策や釣りなどを楽しめるような工夫を。

○高橋尚子委員

- ・売店、レストラン、屋台市場をワンフロアにする（雪や雨の日にわざわざ外に出ない）。
- ・バリアフリーは必要。
- ・車イス、歩行器、ベビーカー使用でも通れる、ゆっくりとした店内のスペースがほしい。
- ・見た目がキレイだと入りたくなる。
- ・品物を並べるだけでなく、ミニ情報（身体にどのような効果があるのか、いろいろな料理方法）を一言添えるだけでお客様は興味を持つと思う。特に県外の人にはわかりやすい。
- ・神岡には2社の酒蔵とアキモト酒店があり、いろいろな取り組みをしている為、イベント等を行う。
- ・加工所を活用し手作りの物を販売する。食をそそるような香りが立ちこめると人が集まる。
- ・人伝いにうわさが広がる、レポート出来るような工夫が必要。

○中村淑子委員

- ・売店販売スペースが狭く、車イスの人は入れないのではないかと思います。スペースを広げるにより商品数の拡大につながればと思いますが、現在のままでは限界があると思います。売店の会計の場所を壁側にし、中央の場所も商品陳列できるようにするとかの工夫はどうでしょうか。
- ・売店では十文字道の駅のりんごや果物が置いてあり、神岡の特産物の他のおいしい物があり嬉しく感じました。他の道の駅との連携はおいしい物が増えて、また、他の地に行かなくても手に入るの、便利でよいと思いました。
- ・レストランは暗い感じがするので、また他に、パーテーションがないとかベルを設置して欲しいとか、冷蔵庫の共有とかの問題提起等がある様ですが、予算をいただいて、お客様が入りやすく、メニューにも一工夫をこらして楽しく過ごせる場所にしていただけたらと思います。
- ・緑地になっている所にドッグラン、子どもの遊ぶ場所などを検討してみてはどうか。
- ・いろいろな課題が多いため、全面改装の方向で検討するのがよいと思われます。予算面については全く無知な者の意見です。

「文教エリア」についての意見

○齊藤亘委員

人口減少や働く世代の地域外への流出など、神岡地域での活動が薄れる現実を実感する。

そこで、「文教エリア」の復活に努め、出会いの場・憩いの場・学びの場・安住の場などの整備を進める事を望みたい。

また、中央公園周りを中心とし、中川原公園・酒蔵など地域外からの観光を目的とした集客の散策路としても好適な場所として捉えられる。「文教エリア」は出会い、そして愛を育み、生活の拠点になり、病める時は診療所、出産後はだけっこ園、時を刻み老後は愛幸園もあり、そうして宝蔵寺と墓地公園。実現の為にはビュータウンの増設も必須では。

また、道の駅も市外からの経済効果を得る為の場所としても重要と捉える。

その他、「文教エリア」の実現の為にも、図書館の充実も必須と思う。できれば人の集まるオシャレな図書館を新設してみても。

「神宮寺駅前から神岡支所付近まで」についての意見

○佐藤和彦委員

神岡地域中心部で継続的な集客を行う。四半期毎の開催。屋台市、ラーメン等麺類、直売、フリーマーケット。地域外参加も可。

「その他」の意見

○高橋尚子委員

- ・大仙市健幸まちづくりプロジェクトの推進もかねて、神岡にも良いコース（中川原フットパス、嶽山山道等）があるので、軽運動をすすめる活動をするのも良い（神岡の住人でも中川原フットパスを知らない人も多いと思う）。
- ・子ども達にも神岡の良さを知ってもらう為にも神岡散策を企画してほしい（小中学校で）。

神岡地域協議会運営規程第7条第2項の規定によりここに署名する。

会議録署名委員

